

ピノキオの物語

昔、昔の大工屋さんで、親切でフレンドリーな紳士のゼベットは、その日に作った木製の人形にペンキを塗って、別の日の仕事を終わっていました。それを見て、彼女は考えました：それはどれほど美しいか！そして、人形が松の木でできていたので、ジェベットはそれをピノキオと名付けることにしました。その夜、ゲッペトは彼の人形が本物の男の子であることを願って眠りについた。彼女はいつも子供が欲しいと思っていました。そして、眠りについたとき、良い妖精がやって来て、ピノキオが美しいと思ったとき、彼は魔法の杖で人形に命を吹き込み、良い大工に報酬を与えたいと思いました。翌日、目が覚めたとき、ゲベットは彼を信じるできませんでした。目。ピノキオは、本物の子供のように動き、歩き、笑い、そして話しました。幸せでとても満足して、Geppeto は Pinocchio を学校に送りました。私は彼にとっても頭のいい男の子になって、たくさんのお話を学んでほしかった。彼は、良い妖精が彼に与えたアドバイザーである友人のペピトクリロを伴っていましたが、学校に行く途中で、ピノキオはクリケットのアドバイスを無視して、2人の非常に悪い子供たちと友達になりました。ピノキオは学校に行く代わりに、あまり良くない冒険を探して、新しい友達をフォローすることにしました。この状況を見て、良い妖精は彼に魔法をかけました：学校に行かなかったために、彼は彼に2つのロバの耳を置きました、そして彼が嘘をつくたびに、彼の不正行為のために、彼の鼻は赤くなりました。ピノキオは自分が良くないことに気づき、残念ながらジェベットを探すことにしました。その時、ゲッペトが海で彼を探していたとき、巨大なクジラに飲み込まれたことを知っていたピノキオは、クリケットの助けを借りて、貧しい老人を救うために海に出ました。ピノキオがクジラの前にいたとき、父親を返してくれるように頼んだが、クジラは口を大きく開けて飲み込んだ。クジラの腹の中で、ゼベットとピノキオは再び会った。そして、彼らはそこから抜け出す方法について考え始めました、そしてペピトクリケットのおかげで彼らは抜け道を見つけました。彼らは火事を起こしました。火事で巨大なクジラがくしゃみをし、3人の乗組員と一緒にいかだが飛んでいきました。ピノキオは家に帰って学校に戻り、その日からいつも元気に振る舞っていました。そして、彼の優しさへの報酬として、良い妖精は彼を肉と血の子供に変えました、そして彼らは何年もの間とても幸せでした…

1. ストーリーを要約する：Pinocchio